らいだーさんのバイト的日常

～前編～

成年向
FOR ADULT ONLY

ライダーさん。

すまないね、今日は息子夫婦が急に会いに来たもので。

ライダーさん一人に任せてしまって大丈夫かい？

なんなら、今日は店を閉めてしまっても良いんだよ？

大丈夫ですよ、店主。

どうぞ、お気になさらず羽を伸ばしてください

そうかい？ライダーさんがそういうならご好意に甘えようかねえ。

カラン♪
カラン♪
いってらっしゃいませ。

らいだーさんのバイト的日常 －前編－

では、倉庫の整理でも…

きゅっ

きゅんっ♡

……っ。

……あ…

……自らが犯した罪の報いとはいえ、これは、少しきついです。サクラ…

話は二日前にさかのぼる。

ぷらぷら♡

な、な、な!? なんなの!? ライダーこれは――っ!?

それは日頃の感謝の印と、私の「詫びの心」です、サクラ。

詫びの心?

はい。先日のサクラとタイガのやりとりを聞いてしまったもので私もひとつ謝らなくては思いまして。

まさかサクラがあれほどご立腹されるとは――

ああ、あれね。あれは藤村先生があまり酷かったからつい、怒っちゃったの

カチャッ…

注：想像図です、あくまで。

だって、私が楽しみにとっておいたフルールのスペシャルケーキまで平らげちゃったんだもの。

それでなくとも衛宮の財政は毎月赤字なのに。

ゴゴゴゴゴゴ

でもあれはちょっと怖かったですよ、サクラ(汗)

——ってことは、ライダーもつまみぐいとかしたの？

はむっ♪

…はい。

その…つい、我慢できずに。

いえ…真に軽率でした。いくら空腹だったとはいえ、あのような——

へぇー、珍しい。セイバーさんならわかる気もするけど。

気付かなかったなー。で、何を食べたの？

そっ…それは——

あせ あせ

あ！そういえば今日はサクラのためのフルールスペシャルケーキも買って来てるんですよ!!

？

わかんないなー。なんでライダーがそこまでするの？

ぱくっ

もしかして、また美綴先輩に手を出したんじゃ…

ぶんぶんぶんぶんぶんぶん

い、いえアヤコではありません。

確かに彼女の血はとても魅力的ですが。

わくわくわくわく

ねえねえライダー、何を食べたのか教えてよ、怒らないから。

ホ…ホントですか、サクラ。

うん!! だってライダーの好みがどんなのか知りたいし。

それに、最近はかなり避けられ気味なので——

ぱくっ

そうかあ…。

——…で、では正直に告白すると、

私が頂いたのはケーキでもアヤコでもなく、

そ、その——

——シ…

ピッ

シャアッ

士郎を…

へ…へえー、そ、そ、そ、そうなんだ、ライダーが衛宮先輩を…

へえええええええええっ。

だら

だら

だら

だら

知らなかったなーいやもうホント。これっぽっちも。

ライダーのことは一ミクロンも疑ってなかったからなぁ。

あ、でも仕方ないか。

あの時の私ってば聖杯に囚われてたし、ライダーのこと放置しちゃってたもんね。

だからあれは私にも責任あるから。

ここはライダーだけを責めるわけにはいかないよね。だからもう顔を上げてね？

がばっ!!

で、では、許していただけるのですね、サクラっ!!

あっ…

でも内容は聞かなくちゃ♪

黒い

ゴゴゴゴ

ええ、そりゃもう一秒単位で、事細かくね!!

まあ、そんなわけでかなりのお仕置きをくらったわけで。

――ですが、罰はそれだけで済まされず、実は今も続いています。そう、今も…。

はーっ

はーっ…

はあぁっ…

あっ♡…はああ……っ♡

ぶるぶる

はあっ…♡

びくっ

びくっ

サクラから…なっ…何度も聞いていましたが
ま…まさかこれほどの…ものとは…
…んっ♡
ぶるぶる
はあっ…
はあっ…
ほんの3日間と思って…受け入れてしまいましたが…
ぶるぶる
はーっ…はーっ…
きょ…今日は店主が不在でた…助かりました…
は…早くまた、抑えつけないと…こ…このままでは…
びくっ♡
びくっ♡
きゅう
あっ!?
ビクッ
ビクッ
あっ♡
あっ♡
。。
びくっ♡
はあああっ♡
んっ♡

あっ♡
ああっ♡
ブルブル…
じゅんっ…♡
これが今の私に科せられた罰なのだ。この、あまりにも卑猥なお仕置きこそが…
わあ♡
ぱ
ああああっ
とっても似合ってるよ、ライダー♡
あ、…あの、サクラ。そうまじまじと見られるとかなり恥ずかしいのですが。
かあ
特にこの辺とか、たっぷりとね♪
あっ♡
サ、サクラっ、そこはっ!!?
ぷっ♡
ライダー？口答えは良くないとおもうけどな——
ああっ…
えーっ!? 可愛いのにもったいないなぁ。もうちょっとじっくり見せてよ。
これはライダーにとっての罰ゲームなんだからね♡
ぶるぶる…
は…はい…で…ですから…はっ…早く罰を賜ませ…
あんっ♡

えーっ…いいの？ ここは、随分気持ちよさそうにしてるけど♪

ひくっ ひくっ♡

ちゅっ♡

ちゅくっ

ちゅくっ♡

そ…そんなことはありません…

んんっ♡…そんな…っ

ビクッ♡

ホント、ライダーってほうそつきなんだから♪

ちゅうう♡

ビクッ♡

ひあああっ♡

はあ…

はあ…

サ…サクラ…こ…これ以上は…もう我慢…できません。

は…早く罰を済ませて下さいっ…

そう？ それじゃあ仕方ないなあ。ちょっとまってね、えーと…。

ぶるっ

ぶるるっ…

びくっ!!

じゃーんっ!! これ、なんだかわかる？

そっ…それは刻淫蟲!?

まっ、まさかそれを私の体内(なか)に!?

流石ライダー、よくわかってる♪

そ、それは、いくらなんでも酷過ぎます！

他の罰なら、いくらでも引き受けますからーっ！

えー、そんなこと言うなら令呪使おうかなーっ

うぅ…やります…

ほらほらライダー、もっとちゃんと開けて見せてくれないとダメよ。

ぱっ

あっ♡

トロッ…♡

ああああっ…

ひくっ♡

ひくっ♡

そうそう。しばらくそのままでいてね、ライダー。

じゃあ、まずは一匹目からいきまーす♪

ぶるぶる

すぐ済むから、ちょっと我慢してね♪

んっ!?

ちゅぷぷぷっ♡

ビクッ

んんっ!?

ビクッ!!

んっ♡

んんんんっ♡

はいこれで二匹目。これなら、もう一匹ぐらいいけるかな?

ちゅぷ♡

ちゅぷ♡

はい、これで全部だよ、ライダー。
はぁ…
でも、この仔達はまだ幼虫だから、
このままだと子宮にまで届かないんだよね。
はぁ…
だから、これでちょっと手伝ってあげないと、ね♡
ちゅぷ♡
え!?
あ!? ちょ…サ、サクラ、それはっ…ああっ♡
くあっ、ふっ…太すぎます、んんっ♡
あれ? おかしいなぁ、全部入んないよ。
あっ♡
あっ♡
んー、じゃあ
これならイケるかな?

えいっ♪

あっ!?

あっ♡

あ――っ♡

うん、ばっちり♪ ちゃんと奥まで入ったみたいね。これで準備完了♪

ああああっ♡

あっ♡

あ――っ♡

あれ? もしかしてライダーってばもうイッちゃったの?

本当に凄いのはこれからななのに。

あ♡

はぁ…

こ…

これ…から？

はぁ…

ぎゅるんっ!!

ぎゅっ♡

ひっ!?

ひっっっっ♡

ぐりっ♡

アッ♡

んんっ♡

あっ♡

あっ♡

びくっ

びくっ

あっ♡

ああっ♡

がくがく

がくがくっ

サ…サクラぁ…

こ…これっ♡

すっ…すごいい

でしょ♪

でも、まだまだよ。
はあっ…
今、蟲達はライダーの一番感じる場所を探し回ってる最中なんだから♡
はあ…♡
そ…そんな
はっ!?
ちゅっ…ん
やあああっ!?
あっ!?
ぬっ!

ダメよ、ライダー。取り除こうなんて考えちゃ。言ったでしょ？

これはあなたへの罰ゲームなんだから。

んっ♡

んっ♡

んあっ♡

そう、私はその時漸く悟ったのだ。

己がマスターである間桐桜の想い人、衛宮士郎を寝取った事は途方もない大罪だったということに――。

びくっ

びくっ

びくっ♡

びくっ♡

んっ♡

んんんっ♡

あっ♡

あっ!?

ああ♡

ビクッ♡

ビクッ♡

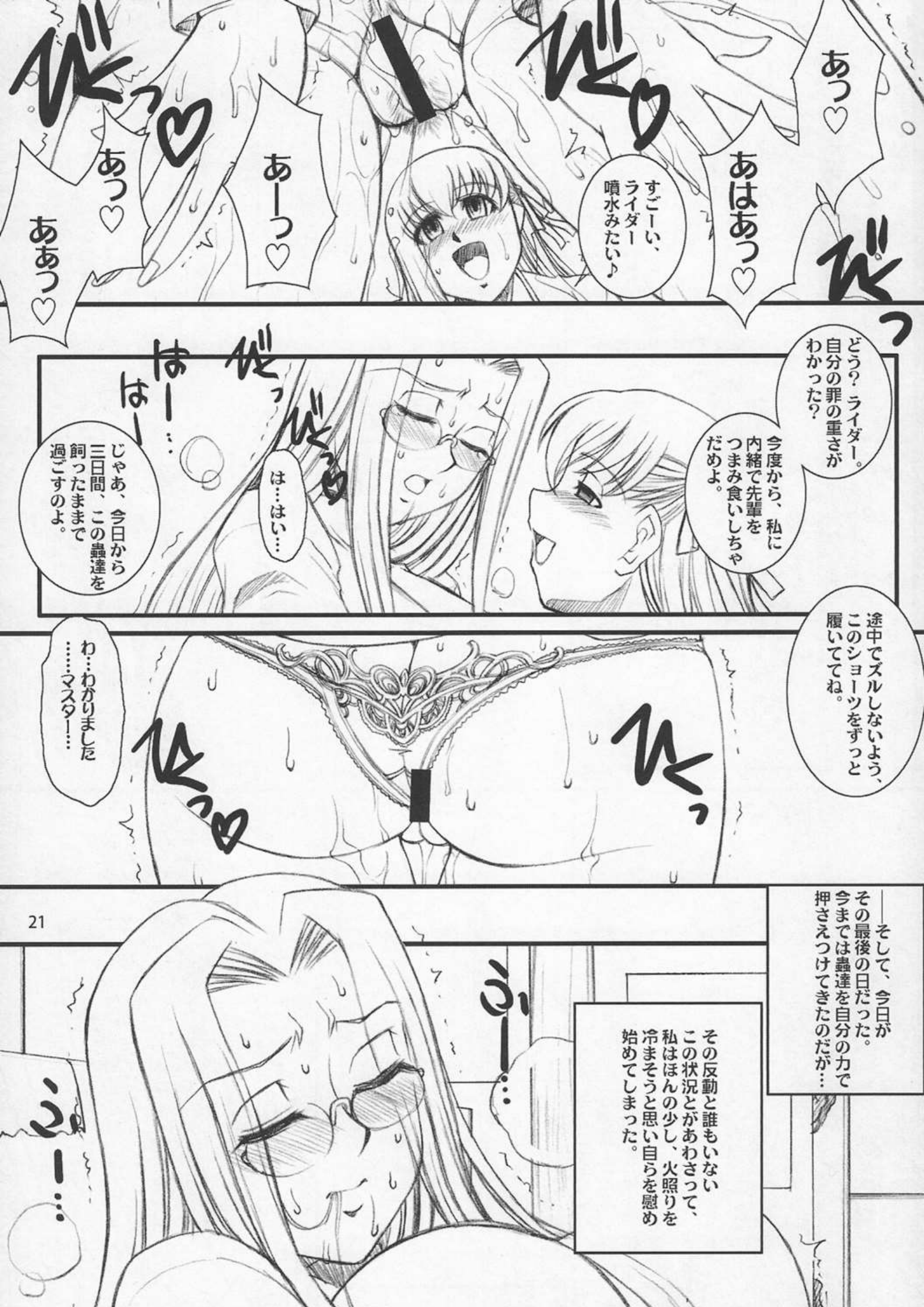
ビクッ♡

ああああっ♡

ア

ア

ア


あっ♡
あはあっ♡
すごーい、ライダー噴水みたい♪
あーっ♡
あっ♡
ああっ♡
どう？ ライダー。自分の罪の重さがわかった？
今度から、私に内緒で先輩をつまみ食いしちゃだめよ。
は…はい…
じゃあ、今日から三日間、この蟲達を飼ったままで過ごすのよ。
はー…
途中でズルしないよう、このショーツをずっと履いててね。
わ…わかりました……マスター…
――そして、今日がその最後の日だった。今までは蟲達を自分の力で押さえつけてきたのだが…
その反動と誰もいないこの状況とがあわさって、私はほんの少し、火照りを冷ましそうと思い自らを慰め始めてしまった。
ふー…
ふー…

びくっ…

あ…♡

あふっ…

はぁ…はぁ♡

は…んっ♡

くちゅっ♡

くちゅっ♡

びくんっ!

久しぶりのこの快感をじっくりとねぶるように味わい、そして一度、たった」一度だけ、

そう自分自身に言い聞かせて、静かに昇りつめて行くつもりだったのだが…

はっ♡

ああっ♡

ちゅっ♡

ちゅぷっ♡

んっんんっ♡

ぶるぶるぶるっ

ふっ…

んっ!!

いい? ライダー私が良いって言うまで蟲を取っちゃダメよ♪

それと我慢できなくなっても絶対自分でしちゃだめよ♪

私はサクラの言うことを意地悪の延長だと思い、その一言を軽く聞き流してしまった。

びくんっ

あはあっ♡

びくっ

ふっ…♡
んっ…♡
それが本当の忠告だとも気付かずに――
んふっ…♡
ん…♡
きゅいっ…
あっ!?
あっ♡
あはあっ♡
きゅうううっ♡
――それは、いきなりだった。私の子宮内の蟲達が一斉に活動し始め、私は為す術もなく一気に高みへと放り上げられた。
そう、今まで私の中にいた淫蟲達は、ただ単に眠っていただけ。不用意にも、私は彼らを叩き起こしてしまったのだ。
う…うそっ!?
あっ♡まっ…まってっ、ああっ
やあっ、ああそんなああっ!?

ひあっ♡
あっ♡
だめっ
だめえっ♡
まっ、また…ああっ
またイクううう♡
私は幾度となく悦楽の頂点を極めていった。
だが、それでも蟲達の蹂躙がやむことはなく、さらなる絶頂をむかえる。
あっ♡
あっ♡
今までの禁欲と合い重なったこの肉体を私はむさぼるように犯し続け、自らの痴態を晒し続けた。
はああっ
ああっ♡
ひあああっ♡

あっ♡
ああああっ♡
信じられないほどの蟲達の暴れように、私は完全に我を失ってしまった。狂ったように指を動かし、秘裂をまさぐり続ける。
ぢゅぷっ
ぢゅぷっ
ぢゅぷっ
ぢゅぷっ
周りの全てが見えなくなるぐらい私の頭の中は彼らに支配されていたのだ。
こりこり
あっ
ひああっ♡
んっ…
んんっ♡
んんんっ♡
どれくらいたったのか解らなくなるほど、私は自慰に耽り続ける。
その甲斐あってか、蟲達が静かになり始め、ようやく自分を抑えられそうだった…
ガチャッ!
ぢゅっ!!
！？

だからさ――っ、アタシそこでガツンと言ってやったんだよ。

まあ、蒔の字の言うこともっともではあるな。

お、まだ置いてある。やっぱほしいな――、コイツは。

でも、このままだとまた遠坂に横取りされるかもしんないし、ここは先に持って帰って後で代金を届けてやろう。

もちろん、分割払いだけどな!!

ぐっ!

無茶苦茶なことを言うな。

っていうかそれは窃盗という立派な犯罪だぞ、マキジ。

お!? てことはやっぱコイツはアタシの物ってことか!?

ほんとにおめでたいな、マキジは。

キョロ

キョロ

でもカエちゃん、今店員さんいないみたいだけど…?

ブー

ブー

メカネは一々うるさいな――っ!!

ちょっとくらいのお茶目いいじゃん、ここの常連なんだし――!!

私が言っているのは一般常識であってだな――

いらっしゃいませ、みなさん。
あ!!
ライダーさん。
今日は、何か御入り用ですか?
例の香炉だけど、やっぱり分割とかで譲って貰えない?
そうですね、じゃあちょっと見てみましょうか…。
きゅーんっ
あっ…
びくっ!!
私は、その時初めてサクラの言っていた本当の意味を理解した。

——んんっ
んっ♡
子宮に巣くった蟲達は、一度火が点くと抑えられるような物ではなかった。それはサーヴァントの私にとっても例外ではなく
後ろで何事もなく談笑を続ける三人の笑い声を聞きながら、
あ…
はああ…
先ほど鎮めたはずのこの身がが新たな快楽の大波に飲み込まれていくのを感じていた——。

n820

ーあとがきと奥付けー

　えー、もう、なんか真っ白な本ですいません；
今回も完全に失敗気味のB-RIVERです～；

今回、かなり手伝ってもらったのですが、結局ほぼ線画のまま
出す運びになってしまいました。orz
まあ、この話もまた続いてしまうのですが、これの続きは
近いうちに出したいなぁとか、考えております。

で、今回もゲストして頂きました、n820さんのライダーさんと
お姉さま二人のナイスイラスト。どうもありがとうございます～

それと、今回お手伝いしてもらったBachさんと来須 眠さん。
かなりいろいろ手伝ってもらって有難うございましたー!
にも、かかわらずこんな出来ですいませんー；；

ううう、もう時間がいつものことながら全くないので
今回はこの辺で失礼しますー；

・・・次回のサンクリどうするかなあ；

奥付
「らいだーさんのバイト的日常 - 前編 -」

発行 / H・B
印刷 / サンライズパブリケーション（株）
hb_river@yahoo.co.jp
2007・12・31

本作品の無断転載厳禁、及び
未成年者の購読・閲覧を禁じます。

H-B